

科目区分	専門基礎分野	科目名	臨床判断基礎演習	対象学生	1 学年
		単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	学 期	1 学期
担当講師	藤川 幸子 (臨床経験 13 年、教育経験 26 年)				
科目目標	<p>1. 患者の症状が正常な構造・機能から、どのように逸脱しているそのメカニズムについて考えることができる。</p> <p>2. 患者に出現している症状や関連する観察の視点を考えることができる。</p> <p>3. 患者に起きている症状や機能障害が全身に及ぼす影響を考え、臨床判断の基礎的思考力を習得できる。</p>				
授業計画	<p>第 1 回 講義の概要説明 ・呼吸困難を訴える患者の状況 ・正常な呼吸器系の構造と機能についての知識の確認 ・生理的変動因子から呼吸の変化を考える。 (講義)</p> <p>第 2～3 回 症状が起きるメカニズムを見抜くために必要な知識 ・呼吸困難が起きるメカニズムを正常な呼吸機能と照らし考える (演習)</p> <p>第 4～5 回 症状が起きるメカニズムを見抜くために必要な知識 ・症状の分類と病態を調べる。 (演習)</p> <p>第 6～7 回 症状が起きるメカニズムを見抜くために必要な知識 ・呼吸困難が全身機能に及ぼす影響について考える。 (演習)</p> <p>第 8～9 回 症状が起きるメカニズムを見抜くために必要な知識 ・呼吸困難が循環器系に及ぼす影響について考える。 (演習)</p> <p>第 10 回 症状を観察する視点 ・呼吸困難やそれに関連する情報の整理。 ・主観的情報、客観的情報の整理 (演習)</p> <p>第 11～12 回 症状を緩和する治療の知識 ・呼吸困難の緩和のための治療について調べる。 ・治療による副作用の知識 (CO2 ナルコーシスなど) (演習)</p> <p>第 13～14 回 症状が起きるメカニズムと観察項目に至る考え方 (グループ発表)</p> <p>第 15 回 まとめと終了試験</p>				
評価方法	筆記試験、課題レポート、グループ発表内容				
テキスト	<p>系統看護学講座 解剖生理 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学②呼吸器 成人看護学③循環器 医学書院</p> <p>看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント 学研</p>				
講師からのメッセージ	<p>模型や視聴覚教材を用いて呼吸器系の構造と機能や呼吸困難について学習する。</p> <p>反転授業、協同学習、グループワークを用いて学習する。</p> <p>気道の構造と機能、肺の構造、呼吸、肺循環と体循環、動脈、静脈、末梢血管、抹消循環、主な症状と徴候 (呼吸困難・チアノーゼ・咳嗽・喀痰)、酸素化障害、換気障害、呼吸運動障害、フィジカルアセスメント (バイタルサインの測定、呼吸音聴取) 情報収集・アセスメントなど、国家試験出題基準を確認し学習すること。</p>				